

授 業 要 項

令和2年度

科目名	社会福祉				担当者	加藤 孝夫			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科 作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	患者さん、利用者さん、ご家族の立場に立って、社会保障・社会福祉の歴史、現状、今日的課題、今後の課題等を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 社会保障の見取り図、ライフサイクルからみた社会保障制度	社会保障制度の仕組みと給付の形態。ライフサイクルと社会保障・社会福祉の理念と制度を理解する。	加藤 孝夫
	2 人権の歩みと日本の社会福祉の歴史	人権の歩みと日本の社会福祉の歴史を理解する。DVD「憲法誕生」上映。	加藤 孝夫
	3 社会保障の制度	社会保障の概念と制度全体の概要を理解する。	加藤 孝夫
	4 社会福祉の基本的な仕組み。社会福祉の機関と施設	社会福祉の基本的な仕組みと社会福祉の機関と施設を理解する。	加藤 孝夫
	5 医療保障、高齢者医療制度	医療保障、高齢者医療制度の基礎知識を理解する。	加藤 孝夫
	6 介護保険制度	介護保険の概要・基礎知識を理解する。	加藤 孝夫
	7 公的扶助(生活保護)	公的扶助(生活保護)の概要を理解する。DVD「朝日裁判」上映。	加藤 孝夫
	8 障害者福祉(身体・知的・精神・発達)、高齢者福祉の概要	障害者福祉(身体・知的・精神・発達)、高齢者福祉の概要を理解する。	加藤 孝夫
	9 子ども家庭福祉	子ども家庭福祉の概要を理解する。	加藤 孝夫
	10 地域福祉	地域福祉の概要を理解する	加藤 孝夫
	11 保健・医療・福祉の連携	保健・医療・福祉の連携を理解する。	加藤 孝夫
	12 まとめ これからの保健・医療・福祉の課題	これからの保険・医療・福祉の課題を理解する。	加藤 孝夫
授業形態	一方通行にならぬよう対話方式に努力する		
教科書	講義の都度 <レジメ・資料>を配布する。		
参考書	これからの保険・医療・福祉の課題を理解する。		
評価方法	評価時期:学習後。評価方法:出席状況と課題レポート:「授業で学んだことを述べよ」の評価		
授業時間外の学習			
履修上の留意点	授業に際し、受け身でなく能動的に参加してください。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	義肢装具学実習				担当者	小澤 義直、内藤 了彰			
学 年	3年	学 期	前期	学 科	PT	単位数	1	時間数	45時間

教育目標 [一般目標]	医療現場で保存療法として装具療法は多くの科に渡り使用されるようになっている。 この実習では現物に触れてもらい少しでも装具を身近に感じてもらい、活用方法を見出せるように義肢装具の種類とと適応を学習して頂く。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 装具総論 3.0	治療用装具と更生用装具の違いを理解し、それぞれの制度を説明できる	小澤 義直
	2 上肢装具/下肢装具 3.0	上肢装具・下肢装具の名称や機能を学ぶ	小澤 義直
	3 短下肢装具 3.0	短下肢装具の機能を学ぶ	小澤 義直
	4 体幹装具 2.5	体幹装具の機能を学ぶ	小澤 義直
	5 臨床での義肢装具士との関わり 3.0	グループワークを通じて臨床の義肢装具士との関りを学ぶ	小澤 義直
	6 義肢総論 2.5	切断者に対するリハビリテーションを学ぶ	小澤 義直
	7 義手/筋電義手デモ 3.0	義手の種類を学ぶ。筋電義手ユーザーのDEMO見学	小澤 義直 内藤 了彰
	8 装具製作 8.0	リハビリテーションでよく使用されている短下肢装具を制作する	小澤 義直
	9 大腿義足/下腿義足/義足体験 3.0	義足を理解し模擬義足を装着し調整方法や特徴を学ぶ	小澤 義直
	10 装具製作 8.0	リハビリテーションでよく使用されている短下肢装具を制作する 完成後の装具評価	小澤 義直
	11 臨床での義肢装具士との関わり 3.0	グループワークを通じて臨床の義肢装具士との関りを学ぶ	小澤 義直
	12 最新の装具 3.0	最新の装具リハビリテーションを学ぶ	小澤 義直
授業形態	スライドによる講義と現物装着、製作、調整		
教科書	義肢装具のチェックポイント		
参考書	義肢装具学		
評価方法	テスト70%・グループワークのレポート30%で評価する		
授業時間外の学習	グループワークの資料作り		
履修上の留意点	2年生時に、義肢装具の基礎を座学にて学習済みであり、3年の実習ではそれをベースに現物に触れてもらえるようになる。種類目的などは復讐されていることが望ましい。		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	地域理学療法学				担当者	長屋政博、児島久治、熊谷泰臣、宮寄友和、佐々木学、関口健一、大西靖、浅野直也、志田卓弥、小林孝輔			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	地域リハビリテーションを考える上で、必要な事項を学び、地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る。 対象者とその家族の病態や状況、希望などに応じて、居住環境の物理的な制約条件を改善するために必要な、家屋評価の基礎、生活環境改善について考えることができる。 理学療法実施時のリスク管理への意識を高める。 理学療法士の役割は臨床、研究、教育、管理であるが、今後、社会参加・国際貢献などは理学療法士の5つ目の柱となり、職域の拡大につながる。国内・国際災害を経験を通じて理解を深めていく。 トランスファーの概念について理解することができる。 摂食嚥下の機能及び障害に関する基本的事項、評価や検査、訓練について理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、PTとしてどんな介入方法があるのか基本的知識を身につける。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 地域理学療法学	地域リハビリテーションの流れ、現状の理解する。具体的な介護予防を理解する。	長屋 政博
	2 地域で生活する障害児・者の現状と課題	障害児・者の現状と課題を理解する。	児島 久治
	3 介護保険制度の概要を学習し、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割と多職種協働について学習する	地域包括ケアシステム、地域リハビリテーション、介護保険の概要を理解する。回復期リハ、通所リハ、訪問リハ、介護老人保険施設の紹介から、地域活動における理学療法士の役割と、地域連携の中の医療介護連携の実際と課題について理解する。	熊谷 泰臣
	4 住環境整備・福祉用具に関する制度 退院後の在宅生活について 住宅改修、福祉用具の知識	住環境整備・福祉用具に関する制度、疾患別・障害別にみた住環境整備の考え方を理解し、説明できる。また、理学療法士の視点から対象者の生活環境の問題点を指摘し、その解決方法が提案できる。	宮寄 友和
	5 青年海外協力隊の概要 理学療法士としての災害医療について (DMAT・JDRIについて)	青年海外協力隊および国内・国際災害時の医療体について理解する(講義とグループワーク)	佐々木 学 浅野 直也
	6 トランスファー 概念及び演習	トランスファーに必要な理論について説明することができる。 患者の状況に応じて方法を選択することができる。	関口 健一
	7 ライン類の種類と目的 訓練時の扱いと注意、抜去時の対応について	ドレーン、チューブ、カテーテル、その他身体に装着されているモニター、監視機器の種類、目的を理解し、離床や訓練時に起こりうるリスクを予想し、正しく扱うことができる。抜去時の対応についても理解することができる。	大西 靖
	8 医療ソーシャルワーカーの業務を知る 社会資源とその活用について知る	医療ソーシャルワーカーの業務概要がイメージでき、他者に医療ソーシャルワーカーを説明できる 介護保険制度の概要について説明できる 患者が生活復帰(社会復帰)する流れをイメージできる	志田 卓弥
9 摂食嚥下とは何か 摂食嚥下障害の病態、原因、検査・評価、リハビリテーションについて	摂食嚥下障害に係る諸器官の解剖・生理について理解し、基本的なメカニズムについて説明できる。摂食嚥下機能の検査、診断、評価からリハビリテーション方法の概要、チーム医療について理解する。	小林 孝輔	
授業形態	講義、グループワーク、実技		
教科書	なし		
参考書	藤島一郎著「脳卒中の摂食・嚥下障害」医歯薬出版株式会社 浜村 明徳・石川 誠・栗原 正紀・斉藤 正身、日本リハビリテーション病院・施設協会：高齢者リハビリテーション医療のグランドデザイン 青海社 厚生労働省医療安全対策 ヒヤリハット事例収集事業の集計結果 チューブ別管理方法と抜去時の対応(日本集中治療医学会 看護部)		
評価方法	長屋：レポート3% 児島：3% 熊谷：期末試験、グループ発表54% 宮寄：レポート9% 関口：授業態度、発表内容7% 佐々木、浅野：グループ発表および学習態度7% 大西：3% 志田：レポート4% 小林：レポート4%		
授業時間外の学習	授業後、資料を見直す等、30分程度の復習をすること		
履修上の留意点	評価・訓練時に行う体位変換や運動がライン類でどう制限されているか、体への悪影響がないかイメージし、抜去時のリスク管理に対する意識づけを持ってほしい。 自分が普段どのようにして「食事」をしているか、「食べにくい」とは何かをイメージしておいて下さい。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	地域理学療法学実習				担当者	鳥山 喜之、浅井 直人、熊谷 泰臣、吉岡 稔泰 平野 佳代子、泉名 伸昭、今泉 良典、 坪井 丈治、深谷 真知子、嵯峨 守人			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	地域リハビリテーションに関わる用語について説明できる。 地域リハビリテーション施設の見学を通し、そのシステム、PTの関わりを考える。 産業保健に対する理学療法および健康維持・増進における理学療法士の関わりについて理解する 整形外科疾患・熱傷・スポーツ外傷・障害における理学療法の考え方を学ぶ。 在宅酸素療法、失語症、栄養について学ぶ		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 施設見学 通所介護と通所リハビリテーション	理学療法士が、勤務している通所介護や通所リハビリテーションにおける理学療法士の業務を理解することにより、地域での理学療法士の関わり方や役割を学ぶ	鳥山 喜之
	2 施設見学 医療と福祉の複合施設で働くPTの理解	明治～令和の高齢者福祉について、その時代背景等を理解する。老人保健法公布以前の発想で設立された高齢者施設を理解する。施設での理学療法業務、入所者の暮らしを知る。	浅井 直人
	3 施設見学 回復期リハビリテーション病棟、通所リハビリテーション、老人保健施設等	回復期リハビリテーション病棟から、通所リハビリテーション、老人保健施設を見学し、そのシステムから理学療法士の業務及び活動を見学し、その後に意見交換会をして、理解を深める	熊谷 泰臣
	4 呼吸機能障害と在宅酸素療法	呼吸機能障害と酸素療法の意義について理解を深める。また、在宅酸素療法関連機器について一部実習を行う。	吉岡 稔泰
	5 スポーツによって生じる外傷・障害に対するリハビリテーションおよび理学療法士としての対応	競技種目特性も絡め、最も重要となるスポーツ動作の分析方法について、基本的な考え方を学ぶ。これらを総合して、スポーツ外傷・障害へ取り組むための思考プロセスを学ぶ。また、選手の競技復帰について視点を広げる。	平野 佳代子
	6 整形外科疾患の急性期における理学療法	画像所見から運動療法に必要な情報を読み取る。急性期における組織の回復課程を推察する。検査・測定内容を選択、実施のシミュレーションを行う。評価と運動療法の実際を学ぶ	泉名 伸昭
	7 栄養学について リハビリテーションと栄養について 嚥下調整食について	三大栄養素、ビタミン、ミネラルについて。リハビリテーション+栄養の併用による期待される事柄について。摂食、嚥下関連における栄養の役割について。	今泉 良典
	8 成人コミュニケーション障害の概論 失語症の症状、下位タイプ、評価方法、失語症患者とのコミュニケーションについて	成人におけるコミュニケーション障害と失語症との違いについて理解する。失語症の症状、下位タイプを理解し、評価方法を学ぶ。失語症者とのコミュニケーション方法を学び、その工夫について考える。失語・高次脳機能領域の解説	坪井 丈治
	9 熱傷の理学療法	熱傷後の運動療法の目的および進め方と留意点を理解する	深谷 真知子
10 地域リハビリテーションにかかわる理学療法士の役割 産業理学療法と健康維持・増進活動	地域リハビリテーションにかかわる理学療法士の役割について説明できる 産業理学療法と健康維持・増進活動について説明できる	嵯峨 守人	
授業形態	講義、見学、意見交換会、グループ発表		
教科書	なし		
参考書	理学療法ジャーナル 2012年 10月号 地域包括ケアシステムと訪問理学療法 医学書院/理学療法ジャーナル 2014年 3月号 特集/地域における理学療法のパラダイムシフト 医学書院 / 地域理学療法学 医学書院 / 地域リハビリテーション原論 医歯薬出版 / 浅野昭裕著:運動療法に役立つ単純X線像の読み方 / 赤羽良和執筆:肩関節拘縮の評価と運動療法 / 松本正知著:骨折の機能解剖学的運動療法 / 林典夫著:運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点		
評価方法	鳥山:レポート7% 熊谷:4% 浅井:3% 平野:レポート、授業態度9% 吉岡:小テスト9% 泉名:期末試験18% 今泉:レポート4% 坪井:レポート7% 深谷:4% 嵯峨:35%		
授業時間外の学習	授業および見学の前後に配布した資料に目を通すこと		
履修上の留意点	見学中、高齢者の尊厳を尊ぶこと。集合時間に遅れないように集合し、静粛な見学に心掛けること。 我が国の少子超高齢化問題について理解しておくこと。地域包括ケアシステムについて理解しておくこと グループワークでは個々の知識の中で積極的に意見を出す事。		
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学演習 I				担当者	近藤 登、渡邊 潤子、細江 浩典 磯村 隆倫、中川 誠			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	PNFの上肢、下肢の基本パターンができるようになる脳卒中片麻痺を中心とした中枢神経疾患の理学療法について歴史的変遷(ボバース概念に基づくアプローチを含む)、脳卒中ガイドラインに基づくアプローチについて講義・実技を通して学習する。 理学療法における物理療法の位置づけや、物理的な刺激が生体に与える影響、物理療法の種類と、各々の使用法及び治療効果について理解する。マイオセラピーについて理解する。 糖尿病理学療法の基礎を理解し、実際の理学療法場面での応用を学ぶ 理学療法を行う上でのリスク管理について学ぶ		
授業計画	テーマ	授業内容〔行動目標〕	担当者
	PNFの概念について(講義) 1 PNFの上肢・下肢基本テクニック、基本パターンの学習(実技)	PNFの概念を説明できる。ビデオを見た後にグループで実技を行う。PNFの基本テクニック、基本パターンを実技実習にて経験する。(上肢・下肢促通パターン、特殊テクニックを中心に)	近藤 登
	2 中枢神経疾患の理学療法 歴史的変遷 脳卒中ガイドラインに基づくアプローチ その他、急性期病院でのトピックス	脳卒中を中心とした中枢神経疾患に関する理学療法歴史的変遷や、解剖学・生理学を文章で説明できる。Bobath概念に基づくアプローチを文章で説明でき、一部を健常者で実施できる。脳卒中ガイドラインにおける理学療法の内容を文章で説明でき、一部を健常者で実施できる。エビデンスに基づくアプローチを文章で説明できる。脳卒中片麻痺患者の基本的な評価、理学療法プログラムの立案ができ、リスク管理について文章で説明でき、一部の実技が健常者で実施できる。	渡邊 潤子
	3 マイオセラピー概論	1. 理学療法とは 2. 物理療法とは 3. 物理療法の生理学的効果 4. 物理療法の適応と禁忌 5. 物理療法の種類 6. 物理療法各論 7. 実技	細江 浩典
	4 糖尿病の病態・検査 糖尿病の合併症と治療 糖尿病患者の理学療法評価 糖尿病患者の運動療法 糖尿病患者の患者教育 まとめ	・糖尿病の病態と病型分類を理解し説明できる。 ・糖尿病の検査と診断方法を理解し説明できる。 ・糖尿病の治療を理解し説明できる。 ・糖尿病の合併症とその種類を理解し説明できる。 ・急性合併症とその治療および対処方法を説明できる。 ・慢性合併症とその治療および対処方法を説明できる。 ・糖尿病患者に対する理学療法評価が説明できる。 ・糖尿病患者の運動療法の適応と禁忌が説明できる。 ・糖尿病患者における患者教育について理解する。 ・上記を学んだ上でグループワークを行い、実際の場面を想定して糖尿病患者への関わりについて学ぶ。	磯村 隆倫
	5 脳血管疾患・整形外科疾患、呼吸・循環器疾患に対するリスク管理	脳血管疾患・整形外科疾患、呼吸・循環器疾患に対するリスク管理を症例を通して考えることができる。 解剖・生理、PT評価などの重要性を再実習することができる。	中川 誠
授業形態	近藤:実技(ビデオ視聴、補足説明を加えながらのデモンストレーションの見学、各グループでの実技、個人への実技指導) 渡邊:講義 実技実習 グループ発表 細江:講義 実技実習 磯村:講義 グループワーク(グループ発表)		
教科書	後日配布資料あり 渡邊:吉尾雅春:標準理学療法学 運動療法学総論 磯村:石川朗総編集:理学療法テキスト 内部障害理学療法 循環・代謝 第2版 中山書店		
参考書	細田多穂他:理学療法ハンドブック改訂第3版 第2章 治療アプローチ 31章(PNF:基礎編、臨床編)、協同医学出版社 / 柳澤健他:PNFマニュアル 改訂第3版、南江堂 / 脳卒中ガイドライン2015 協和企画 p.270~330 / 吉尾雅春 総監修 極める!脳卒中リハビリテーションの必須スキル 株式会社 gene / 相澤純也 監修:クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる 羊土社 / 相澤純也 監修:クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる 羊土社 / 柳澤 健他:PNFハンドブック 第4版、丸善出版、覚張秀樹:スポーツPNFハンドブック / 南江堂 標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第3版 医学書院 2008 / 物理療法学 第2版 金原出版 2012 / 理学療法学テキストⅨ 物理療法学 第2版 神陵文庫 2009 理学療法学 ゴールド・マスター・テキスト3 第1版 物理療法学 メジカルビュー社 2009 / ベッドサイドの物理療法 第1版 医道の日本社 1991 /リハビリテーション医学全書、物理療法 第3版 医歯薬出版 1991 / 糖尿病治療ガイド2018-2019 日本糖尿病学会 文光堂 / 糖尿病療養指導ガイドブック2018 日本糖尿病療養指導士認定機構 メディカルレビュー社		
評価方法	近藤:授業出席点28% 渡邊:23%(筆記試験90% グループ発表(実技も含む)10%) 細江:論文(レポート)13% 磯村:筆記試験23% 中川:レポート13%		
授業時間外の学習	事前に教科書、資料の該当箇所を目を通すなど30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと		
履修上の留意点	近藤:事前に理学療法ハンドブックのPNFをよく読んで理解しておくこと実技中心で行うので実技の出来る服装で授業を受けること。 渡邊:中枢神経系の解剖学、生理学、基礎運動学で学んだ内容、脳卒中片麻痺患者の理学療法について復習しておくこと。実技実習できるように準備しておくこと。グループまたは個人で発表する内容について理解しておくこと。またわかりやすい発表に努めること。 細江:運動ができる服装、バスタオルおよびフェイスタオル持参 磯村:糖尿病の基礎を理解した上で、実際の理学療法場面でのどのように活用できるかグループワークを行うため自分ならどのように評価するか、何に注意して理学療法を行うのか積極的に意見できるように履修すること。 中川:授業で学んだ各疾患におけるリスク管理を復習しておくこと		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学演習Ⅱ				担当者	深谷 真知子、伊藤 剛、中村 敦子			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	医学の基礎から、専門分野までの知識を再確認し、整理する。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 知識の定着度の確認	令和元年度国家試験問題を解き、その解答を確認し、自己の知識の定着度を把握できる。各分野ごとの理解度を確認し、弱点を見つけることができる。	中村 敦子
	2 個人課題と発表	令和元年度の国家試験を活用し、問題の解釈の仕方、解答への導き方について必要な知識を確認し、解答に至るまでの過程を経験する。また、発表を通して、各分野における解釈に至るまでの考え方を共有できる。	伊藤 剛 中村 敦子
	3 グループ課題と発表	今まで学習した知識を振り返り、その分野における基礎的な知識やポイントを把握できる。また、発表を通じて、知識を共有し、定着や補強が行える。	深谷 真知子 中村 敦子
	4		
	5		
	6		
授業形態	講義、個人発表、グループ発表、小テスト		
教科書	特になし		
参考書	PT/OT国家試験必修ポイント2020 専門基礎分野 基礎医学、臨床医学、基礎PT学、障害別PT治療学		
評価方法	客観試験(深谷:44%、中村:44%) 課題発表(伊藤:6% 中村:6%)		
授業時間外の学習	発表前に、分かり易く、後の自己学習に利用しやすい資料を作成し、発表準備を十分にすること。		
履修上の留意点	分かりやすい発表に努め、授業内でしっかり把握・理解できるよう集中して授業に臨むこと。また、発表で聞いた内容を資料に補足するなど努めること。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学演習Ⅲ				担当者	横井 克佳 神山 卓也			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	・脊髄損傷に関する解剖・病態等基礎知識の習得 ・臨床における理学療法治療についてビデオを通して脊髄損傷の諸動作を学習する ・整形外科疾患における理学療法の考え方を理解する。 ・基礎的知識の臨床応用を理解する。 ・評価・治療の実際を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 教科書および資料を使用し、脊髄損傷を学ぶ	脊椎・脊髄の解剖	横井 克佳
		脊髄・末梢神経の神経生理学	
		脊髄損傷の臨床症状 呼吸器の障害 褥瘡の病理および治療 尿路管理 排尿・排便の臨床症状 随伴症状・合併症	
		脊髄損傷の運動学 残存機能レベルと諸動作	
		脊髄損傷の検査・測定 ASIA ADL検査 動作分析	
		脊髄損傷の治療技術 筋力強化・可動域訓練 諸動作の観察 ADL訓練	
		脊髄損傷の動作分析 ビデオ演習 治療手技を学ぶ	
	2 機能解剖学を基に考える整形外科疾患に基づく評価・治療	病態・障害の把握や解剖学等の基礎的知識が理学療法実施に対していかに重要かを理解する。 評価・治療を具現化するための具体的方法論を考え体現することで考え方、技術を体験する。整形外科部門での画像との関わり方を理解する。また、超音波画像診断装置を使用した学会発表や臨床の応用が増えてきているため実際の使い方や臨床応用を体験する。	神山 卓也
授業形態	講義 実技実習 ビデオ上映		
教科書	頸髄損傷のリハビリテーション ― 国立身体障害者リハビリテーションセンター・マニュアル ― (株)協同医書出版社 ISBN4-7639-0040-1		
参考書			
評価方法	神山:学習後 論述試験(変更の可能性あり)50% 横井:小テスト10% 論述試験40%		
授業時間外の学習	教科書や配布資料の該当箇所に目を通すなど30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1時間程度の復習を行うこと		
履修上の留意点	上記の内容について解剖学・生理学・基礎運動学で学んだ内容を復習しておくこと。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学実習 I				担当者	松田 直美、蕨野 博明 深谷 真知子、中村 敦子、川瀬 翔太			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	中枢神経系理学療法治療学について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	脊髄小脳変性症の理学療法 1 筋萎縮性側索硬化症の理学療法 筋萎縮性側索硬化症の患者に対する対応	脊髄小脳変性症の理学療法の臨床を学ぶ 筋萎縮性側索硬化症の理学療法の臨床を学ぶ グループディスカッションにて筋萎縮性側索硬化症患者を理解する	松田 直美
	2 多発性硬化症	多発性硬化症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法におけるリスク管理、病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。	深谷 真知子
	3 ギランバレー症候群	ギランバレー症候群について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。	深谷 真知子
	4 脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴から理学療法治療プログラムを列挙できる。また、病期に応じた目標設定と治療プログラムを選択できる。	深谷 真知子
	5 パーキンソン病	パーキンソン病について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。	深谷 真知子
	6 筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症について、その病態の概略を説明することができ、障害の特徴や理学療法上での注意点および病期に応じた理学療法治療プログラムを列挙できる。	川瀬 翔太
	7 めまい	めまいについて、その病態の概略を説明することができ、理学療法治療プログラムを列挙できる。	川瀬 翔太
	8 脳血管障害 総論、急性期 脳血管障害患者の評価と実際	脳血管障害片麻痺患者の理学療法の考え方を説明でき、離床を図る上で安全に施行する手順、治療におけるリスク管理、二次障害の予防を説明できる。 脳血管障害患者の予後予測を説明できる。	中村 敦子
	9 脳血管障害 回復期、維持期	回復期、維持期における脳血管障害に対する評価・治療について学ぶ	蕨野 博明
授業形態	講義 グループ発表 実技実習 症例検討		
教科書	千田富義・高見彰淑:脳卒中, メジカルビュー社 沼田憲治:脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ, メジカルビュー社		
参考書	脊髄小脳変性マニュアル決定版,新ALSケアブック第2版 すべてわかるALS・運動ニューロン疾患 小脳と運動失調小脳はなにをしているのか 原寛美・吉尾雅春編:脳卒中理学療法の理論と技術, メジカルビュー社 脳卒中合同ガイドライン委員会:脳卒中治療ガイドライン2015, 協和企画		
評価方法	期末試験[松田9% 蕨野18% 深谷31% 中村29% 川瀬13%]		
授業時間外の学習	中枢神経系の疾患、評価等について30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと		
履修上の留意点	中枢神経系の解剖生理、疾患、病態の理解をしておくこと。自ら調べ解釈や考察を進めていくこと。 実習において脳血管障害の患者さんを評価見学した際に困ったことを考えておいてください。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学実習Ⅱ				担当者	上村 孝司、金子 満寛、千田 景子			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	小児理学療法の基礎となる運動発達を理解し、臨床の場面で活用できる定性的動作分析を学ぶ。 片麻痺者のADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗介助動作の違いを学ぶ。 痙縮に関連した基礎知識を確実なものとし、臨床の場面で活用できるようにする。 代表的な小児疾患の特徴の把握と理学療法を行うための基本的な知識を身につける。 理学療法の立場から小児の正常発達を知り、比較することで発達障害の評価や治療の基本を学ぶ。 進行性筋ジストロフィー患児者の置かれた現状と治療としての装具・車いすについて学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 実技から理学療法を科学する	解剖学・生理学・運動学・心理学などが臨床場面でどのように活用されているかを示す。その中から基礎知識の大切さを理解する。	上村 孝司
	2 情動と理学療法	情動と大脳辺縁系、情動と神経伝達物質、ストレスと自律神経、内分泌、免疫の関連を理解し、社会性に関わる前頭前野の働きを駆使した理学療法の提供を考える。	上村 孝司
	3 動作分析概論	定性的・定量的動作分析、運動・動作・行為、ADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗動作の違いを理解し、その基礎となる正常発達に沿った基本動作について体験する。	上村 孝司
	4 動作分析	基本動作における脳卒中後の片麻痺のADL上の移乗動作と機能統合訓練上の移乗動作の違いを経験し、臨床の場で活用できるよう学習する。	上村 孝司
	5 痙縮状態に対する準備療法	痙縮概念、陽性徴候と陰性徴候、運動障害と運動麻痺、痙縮の定義、筋の過活動、検査、理学療法について解説する。	上村 孝司
	6 中枢神経系の理学療法の基礎知識	筋紡錘、伸張反射、折りたたみナイフ現象、誘発筋電図について、また、錐体路、α・γ系、筋線維タイプ別、筋膜・筋線維膜について解説する。	上村 孝司
	7 ドュシャンヌ型筋ジストロフィーと理学療法	筋ジストロフィーの進行過程による病態の変化を知る ステージ別の理学療法を知る	金子 満寛
	8 二分脊椎と理学療法	残存レベルによる病態の違いを知る 残存レベルに合わせた理学療法を知る	金子 満寛
	9 小児痙縮の特徴、脳性麻痺概論	脳性麻痺を中心とした痙縮の特徴を知る 脳性麻痺のタイプ別特徴を知る	金子 満寛
	10 脳性麻痺児の類型別運動発達と理学療法 片麻痺、痙直型両麻痺、痙直型四肢麻痺、アテトーゼ型	脳性麻痺のタイプ別の運動発達を実技を通して知る	金子 満寛
	11 正常発達と発達障害の理解、評価	正常発達の流れを理学療法の視点で説明できる 正常発達との比較から発達障害を説明できる 発達障害を評価するために必要な事項を列挙できる	千田 景子
	12 筋ジストロフィーの装具・車いす	変形の「発達」からみた装具、車いすの作成の考え方を説明できる	千田 景子
授業形態	利他の心を活用した能動型学習を中心にした講義と実技である。		
教科書	小児理学療法学テキスト <出版社>南江堂 講師作成の資料集		
参考書	中村隆一 著:基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 沼田憲治 著:脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ メディカルビュー 2017 千田富義 編:リハ実践テクニク 脳卒中 メジカルビュー 第3版 2017 木原秀樹:240動画でわかる赤ちゃんの発達地図 MCメディカ出版 Jung Sun Hong 著:正常発達 三輪書店 今川忠男 監訳:脳性麻痺児の24時間姿勢ケア 乳児検診の神経学的チェック法		
評価方法	上村:中間試験13%、実技試験9%、レポート9%、期末試験13% 金子:期末試験、授業態度、双方向形式での対応力(知識、想像力、発想などにより、正誤にかかわらず自分の考えを筋道を立てながら述べることができる)44% 千田:講義中の質問に対しての応答を評価12%		
授業時間外の学習	講義毎に次の事前課題を指示するので対応しておくこと 講義後には、理解できなかった項目について確実な知識にしておくこと		
履修上の留意点	実技実習においては、実技実習ができる服装で参加する。 筋ジストロフィーについては厚生労働省HPからも有益な情報を得られる為、検索しておくことをお勧めする。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法治療学 実習Ⅲ				担当者	米澤久幸、齋木しゅう子、伊藤剛、中村敦子			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	45

教育目標 [一般目標]	肺理学療法の技術について説明でき、基本となる手順を行うことができる。 内部障害系(虚血性心疾患・心不全)の運動療法を進める上で、病態を理解し心臓リハビリテーションの実際や可能な運動負荷やADL訓練について学び、安全性の高い運動処方のあり方を習得する。 内部障害の病態を生理学、解剖学といった知識を基に理解する。呼吸器疾患、循環器疾患、腎疾患の理学療法について考え方を理解する。 がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割について学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 肺理学療法	呼吸介助手技 肺痰法	米澤 久幸
	2 運動と呼吸・循環反応	呼吸・循環器系の解剖・生理学について、説明することができる。 運動強度ならびに運動方法の違いによる運動負荷時の、生体反応について説明できる。 運動の中枢効果・末梢効果について説明することができる。	齋木 しゅう子
	3 心臓リハビリテーション	虚血性心疾患の病態、必要な評価項目と検査結果内容について説明することができる。 心臓リハビリテーションにおけるPhaseⅠおよびPhaseⅡについて内容を説明することができる。また、各Phaseでの理学療法士の役割について説明する事ができる。 運動処方のあり方について説明することができる。 リスク管理の意義について説明する事ができる。 運動の中止基準について説明できる。	齋木 しゅう子
	4 呼吸リハビリテーション	呼吸器の生理学、解剖学の復習をするとともに、治療との関わりを学ぶ。呼吸不全の病態について理解する。酸素療法、人工呼吸器について学ぶ。急性呼吸不全・慢性呼吸不全のリハビリテーションについて学ぶ。	伊藤 剛
	5 エネルギー代謝	エネルギー代謝について、エネルギーの供給系、エネルギー基質、運動時のエネルギー代謝について学ぶ。	伊藤 剛
	6 循環器リハビリテーション	循環器の生理学、解剖学の復習をするとともに、治療との関わりを学ぶ。心電図について復習し、病態と結びつける。心臓リハビリテーションの対象となる虚血性心疾患、弁膜症、心不全について学び、循環器疾患の理学療法について学ぶ。	伊藤 剛
	7 腎疾患のリハビリテーション	腎臓の解剖と機能の復習をするとともに、腎疾患患者における運動機能低下のメカニズムと慢性腎不全患者に対する理学療法について学ぶ。	伊藤 剛
	8 緩和ケアについて リンパドレナージ	がんのリハビリテーションの概要、分類、緩和医療について理解し、理学療法を行ううえでのリスク管理について説明できる。 がん患者に対するリンパドレナージを知る	中村 敦子
授業形態	米澤:実習 齋木:配付資料を中心に、疾患の理解のもとリスク管理や運動負荷についてGroup work形式で内容をまとめ討論の機会を設けすめます。 中村:講義、実技		
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト内部障害理学療法 呼吸 改訂第2版:中山書店 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト内部障害理学療法 循環・代謝 改訂第2版:中山書店		
参考書	「内部障害理学療法学テキスト」改訂第2版 南江堂 「人体機能生理学」南江堂あるいは1年次使用の生理学教科書 「目でみるからだのメカニズム」医学書院		
評価方法	米澤:学修状況4%、レポート5% 齋木:定期試験18% 伊藤:定期試験64% 中村:9%		
授業時間外の学習	授業後に実技の練習を学生間でよく行うこと。 事前に配付する資料について、内容を確認し不明な点は、事前学習としてノートにまとめる。また、授業中解決できない内容については、終了後に質問し、解決するようにして下さい。		
履修上の留意点	解剖、生理の知識を再確認して授業に臨むこと。		
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	理学療法研究法				担当者	中川 誠、深谷 真知子、伊藤 剛、 中村 敦子、嵯峨 守人、川瀬 翔太			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	60

教育目標 [一般目標]	1. 理学療法分野における科学的な研究の手続きについて学ぶ。 2. 研究法的一端を経験し、考え方を学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 研究法総論①	研究とは、理学療法における研究の意義 研究の種類および研究デザインについて 研究の流れ、研究の倫理と管理について	伊藤 剛
	2 研究法総論②	研究計画の立案、統計学との関わり	伊藤 剛
	3 研究法各論(52時間)	理学療法分野における研究の意義を知る。研究の過程と流れを理解し、実践できる。研究の目的を明確にできる。研究の方法論を調査、決定できる。研究結果から考察を推測し、自分達の考えを述べるができる。研究発表を実施することができる。	中川 誠 深谷 真知子 伊藤 剛 中村 敦子 嵯峨 守人 川瀬 翔
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
授業形態	講義 グループワーク グループ発表		
教科書	特になし		
参考書	図説 リハビリテーション技術シリーズ: 国立医療学会 適宜紹介		
評価方法	研究課題および発表内容: 100%		
授業時間外の学習	課題提出や発表日程に間に合うように計画的にグループワークを進めること。		
履修上の留意点	グループでの研究課題においては、担当指導教員に指導を仰ぐこと。		
担当者の実務経験	学会での研究発表の実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 老年期障害Ⅱ				担当者	奥 登貴子 藤部 百代			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	老年期作業療法のプロセスを理解し、老年期の特徴に応じた支援内容について学ぶ。 認知症の症状や評価について理解し、認知症患者の生活のイメージを深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 老年期の特徴	・老年期の特徴についてICFを用いて説明できる。	奥 登貴子
	2 老年期作業療法について	・老年期作業療法の評価について説明できる。 ・老年期作業療法の目的について説明できる。 ・老年期作業療法の介入方法について説明できる。	奥 登貴子
	3 老年期作業療法の実際について	・訪問、通所、入所における基本的な支援内容を理解できる。	奥 登貴子
	4 認知症について	・認知症の概念、症状や一般的特徴、類型を理解できる。 ・認知症の中核症状と周辺症状を理解し、説明できる。	藤部 百代
	5 認知症の評価の目的と方法について	・老年期および認知症患者に対する評価の目的や方法、留意点について理解できる。	藤部 百代
	6 認知症患者に対する情報収集方法と生活の捉え方	・認知症患者に対する情報収集のポイントや、得られた情報と生活をつなげて理解できる。	藤部 百代
	7 認知症患者に対する作業療法の介入①	・認知症患者の特性に合わせた関わり、焦点化、目標設定、プログラム立案の流れを大まかに理解できる。	藤部 百代
	8 認知症患者に対する作業療法の介入②	・臨床における認知症サポートチームの活動について理解できる。	藤部 百代
授業形態	講義 演習		
教科書	標準作業療法学 高齢期作業療法学 医学書院		
参考書	地域作業療法学の介護保険関連レポート		
評価方法	期末試験：奥(50点)、藤部(40点) レポート：藤部(10点)		
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと		
履修上の留意点	作業治療学老年期障害Ⅰ、地域作業療法学等の履修内容が基礎となっていることを理解して講義に臨むこと		
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 認知障害				担当者	藤部 百代 坪井 丈治			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高次脳機能障害の基本的概念・臨床像を踏まえた上で、評価および介入方法について学ぶ。 失語症を理解するために必要な基礎的な神経心理学的知識を踏まえた上で、失語の症状、失語症候群、評価および介入方法について学習する。								
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者		
	1 高次脳機能障害とは		・高次脳機能障害の基本的概念と対象疾患・障害について説明できる。 ・高次脳機能障害の評価について基本的な考え方を説明できる。 ・高次脳機能障害の治療について基本的な考え方を説明できる。				藤部 百代		
	2 失行について		・失行の概念・症状・分類について説明できる。 ・失行の評価内容と手順を説明できる。 ・失行の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	3 失認について		・失認の概念・症状・分類について説明できる。 ・失認の評価内容と手順を説明できる。 ・失認の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	4 半側空間無視について		・半側空間無視の定義・症状について説明できる。 ・半側空間無視の評価内容と手順を説明できる。 ・半側空間無視の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	5 記憶障害について		・記憶障害の定義・分類について説明できる。 ・記憶障害の評価について説明できる。 ・記憶障害の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	6 注意障害について		・注意障害の定義・分類について説明できる。 ・注意障害の評価について説明できる。 ・注意障害の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	7 遂行機能障害について		・遂行機能障害の定義・分類について説明できる。 ・遂行機能障害の評価について説明できる。 ・遂行機能障害の訓練の基本原則について説明できる。				藤部 百代		
	8 成人コミュニケーション障害の概論		成人における他のコミュニケーション障害と失語症との違いについて理解する。				坪井 丈治		
	9 失語症の言語症状、下位タイプ、評価方法について		失語症の症状、下位タイプを理解し、評価方法を学ぶ。				坪井 丈治		
	10 失語症患者とのコミュニケーションについて		失語症者とのコミュニケーション方法を学び、その工夫について考える。				坪井 丈治		
	11 国家試験対策		失語・高次脳機能領域の解説(脳画像を含む)				坪井 丈治		

授業形態	講義、演習
教科書	標準作業療法学 専門分野 高次機能障害(医学書院)
参考書	作業療法学全書 作業治療学5 高次脳機能障害(協同医書) 高次脳機能障害の作業療法(三輪書店) 高次脳機能障害学 第2版(医歯薬出版)
評価方法	期末試験(筆記試験); 藤部 90点 レポート; 坪井 10点
授業時間外の学習	配布資料を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	症状－評価－介入を、結びつけながら理解するように努めること。
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法および言語療法に従事

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 発達障害				担当者	加賀谷 繁 藪押 佐永巳 井出 芳恵 松原 健			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	発達障害分野のOTについて臨床での事例を通して評価から治療の流れ、治療の組み立て方について学ぶ。 脳性麻痺の様々な機能障害から生活障害について知り、それに対して治療ができるように類型別の発達障害の特徴を理解し評価が行えるよう知識を深める。 重症心身障害児(者)について理解と援助ができる。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 脳性麻痺児アトニー型の臨床像の理解	アトニー型の症状を理解する。 問題点の抽出と結びつけを考え、具体的な治療場面設定を考案してみる。	加賀谷 繁
	2 脳性麻痺児アトニー型の治療と援助の理解	ビデオ症例を基に問題点の抽出と具体的な治療場面をグループワークする。	加賀谷 繁
	3 作業療法の治療の流れ	面接から実際のアプローチまでの流れを説明できる。	藪押 佐永巳
	4 評価方法 面接、観察、検査	面接、観察、検査について内容と特性を説明できる。	藪押 佐永巳
	5 評価(行動観察)	行動観察から治療を組み立てることに必要な対象児の特徴をひろい出すことができる。	藪押 佐永巳
	6 主訴と問題点の整理	主訴を分析し、行動分析から得られた対象児の特徴と結びつけることができる。	藪押 佐永巳
	7 目標とプログラムの立案	導き出された問題点から目標を設定し、具体的なプログラムを立案できる。	藪押 佐永巳
	8 脳性麻痺に対する基礎知識	脳性麻痺の発生機序、臨床像、障害構造について説明することができる。	井出 芳恵
	9 脳性麻痺の評価・作業療法の実践(生活支援)	脳性麻痺の姿勢・運動の視点を学び、評価のための観察項目、検査、テスト名や生活支援を理解、説明できる。	井出 芳恵
	10 症例検討	症例を通し、脳性麻痺の作業療法について学ぶ。	井出 芳恵
	11 発達障害の理解と援助	発達障害について興味関心が持てる。	松原 健
	12 脳性麻痺	脳性麻痺について理解が深まる。	松原 健
	13 原始反射	原始反射について理解が深まる。	松原 健
	14 運動発達の遅れと筋緊張異常	脳性麻痺児特有の運動発達の遅れと筋緊張異常について理解が深まる。	松原 健
	15 重症心身障害児(者)	重症心身障害児(者)の理解が深まる。	松原 健
	16 摂食・嚥下障害	摂食・嚥下障害について理解が深まる。	松原 健
	17 重症心身障害児(者)の摂食指導	摂食指導について理解し、援助ができるようになる。	松原 健
授業形態	講義 グループワーク グループ発表 実習		

教科書	井出:福田美恵子編:標準作業療法学 発達過程作業療法学 医学書院 配布資料
参考書	小西紀一編集:発達OTが考える子どもセラピの思考プロセス メジカルビュー 小西紀一編集:子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ 奈良勲 鎌倉矩子監修: 人間発達学 医学書院 矢谷令子監修:標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 Karel Bobath著:脳性麻痺の運動障害 医歯薬出版 Berta & Karel Bobath原著:脳性麻痺の類型別運動発達 医歯薬出版 岩崎清隆ら著:発達障害と作業療法(実践編) 三輪書店 岡田喜篤監修:重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版
評価方法	レポート・発表:加賀谷 25点、感想文:藪押 25点 期末試験(筆記試験);井出 35点 レポート;松原 15点
授業時間外の 学習	加賀谷:配布資料や授業でのビデオ症例を基に問題点の抽出と具体的な治療場面をグループワークし、 まとめる。 藪押:授業の際に不足を感じた基礎知識についての学習を行うこと。 井出:教科書の該当箇所に通すなどの事前学習を行い、講義後は講義内容を元に1時間程度の復習 を行うこと。 松原:講義内容と配布資料を基に復習すること。
履修上の 留意点	加賀谷:人間発達学・運動学・解剖学・発達障害関係の授業内容を十分復習しておくこと。 藪押:運動機能、認知機能、言語機能など様々な機能の発達がどのように関係しているかを復習して おくこと。
担当者の 実務経験	病院で発達障害領域の作業療法に従事

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 内部疾患Ⅱ				担当者	山田 剛史 塩谷 絵梨			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	循環器疾患、呼吸器疾患および代謝疾患に対する作業療法を実践できるためにその病態を理解し、作業療法の治療、指導、援助法を修得する。 がんのリハビリテーションの概要を理解し、がんに対する作業療法における評価法やプログラムについて学ぶ。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 呼吸器系疾患	①呼吸器の構造と機能について説明できる。 ②呼吸運動、肺気量、換気、呼吸気の組成、調節機能について説明できる。 ③呼吸器疾患の病態と障害について説明できる。 ④作業療法の目的、評価、訓練・ADL指導について説明できる。	山田 剛史
	2 症例検討	①症例の病態と障害像を説明できる。 ②問題点を列挙できる。 ③治療目標(長期目標・短期目標)を設定できる。 ④作業療法プログラムを立案することができる。	山田 剛史 塩谷 絵梨
	3 がんのリハビリテーション	①がんのリハビリテーションについて、これが必要とされる社会的背景、がんのリハビリテーション分類、対象となる障害の種類について説明できる。 ②がんのリハビリテーションにおける、作業療法評価、アプローチについて説明できる。 ③事例を通し、がんのリハビリテーションを実施する上での注意点や、どのようにチーム内で連携をとっていくか、説明できる。	山田 剛史
授業形態	講義、グループワーク		
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学(医歯薬出版) 作業療法実践の仕組み(協同医書出版) 標準作業療法学 身体機能作業療法学(医学書院) 病気がみえる 循環器、呼吸器(メディックメディア)		
参考書	1)辻哲也編集:がんのリハビリテーションマニュアル 周術期から緩和ケアまで 医学書院 2)岩崎テル子編:標準作業療法学 専門分野 身体機能作業療法学 医学書院		
評価方法	呼吸器疾患;期末試験(筆記試験) 30点 がん;グループ発表 10点、期末試験(筆記試験) 10点 症例検討;レポート(個人課題) 50点		
授業時間外の学習	呼吸器疾患;呼吸器について知識を整理して臨む 症例検討;進捗状況により、グループワークを実施する必要あり		
履修上の留意点	症例検討;症例は脳血管障害(内部疾患を合併)とする。既習内容を十分に確認して授業に臨むこと		
担当者の実務経験	病院で身体障害の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業治療学 精神障害 演習				担当者	水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	精神医学および治療学・評価学で学んだこと、臨床実習で体験したことをもとに、精神障害分野の作業療法実践に関する知識・技術を学び、理解を深める。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 急性期作業療法の実際について	急性期作業療法の実際について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、急性期作業療法のアプローチについて考えることができる。	水野 準也
	2 退院支援に対する作業療法の実際について	退院支援における作業療法の実際について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、退院支援における作業療法のアプローチについて考えることができる。	水野 準也
	3 地域生活支援に対する作業療法の実際について	地域生活支援における作業療法の実際(外来作業療法、ACTなど)について講義や文献などを用いて理解することができる。 演習を通して、地域生活支援における作業療法のアプローチについて考えることができる。	梅田 雄嗣
	4		
	5		
授業形態	講義、演習(症例検討・文献抄読)、グループ討議および発表		
教科書	山根 寛：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 第3版 富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	文献抄読まとめ(45点)、発表レジュメおよび発表内容(55点)		
授業時間外の学習	文献抄読、模擬症例等において発表にむけたレジュメの作成を行う。		
履修上の留意点	作業療法評価学精神障害、作業治療学精神障害Ⅰ・Ⅱで学んだ内容をもとに授業が展開されることを念頭において臨むこと。		
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	義肢装具学				担当者	中村 恵一 佐藤 努 塩谷 絵梨 嵯峨 守人 小澤 義直 内藤 了彰			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	切断と義手および切断者に対する作業療法プログラムについて理解し説明することができる。 上肢切断者の義手の評価及びリハビリテーション訓練(身体計測、種類、名称と構造、操作方法、職場復帰などに関して)について学ぶ。 また、義足および切断者に対するリハビリテーションについて理解する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 切断の概要	切断者の概要、原因、最近の傾向について理解および説明することができる。 切断部位の選択因子・原則について理解および説明することができる。 断端とは何か理解し、ケアについて理解し説明することができる。 切断・離断部位の機能的特徴について理解および説明することができる。						塩谷 絵梨	
	2 切断術後の義肢装着法について	義肢装着時期・装着法について理解および説明することができる。 切断の原因疾患についての特徴や障害像など理解し説明することができる。						塩谷 絵梨	
	3 義手について	義手の分類と基本的構成要素について理解および説明することができる。 ソケット・手先具・継手・ハーネス・制御装置の種類や特徴・機能について理解および説明することができる。 切断レベル別に義手の種類をあげることができる。						塩谷 絵梨	
	4 切断者に対する作業療法プログラムについて	義手装着前訓練のリハビリの流れについて理解および説明することができる。 義手の操作方法について理解および説明することができる。						塩谷 絵梨	
	5 上肢切断者の評価、義手装着訓練	切断者のリハビリテーションの意味、義手使用の目的を理解する。						中村 恵一	
	6 能動義手の訓練	能動義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。						中村 恵一	
	7 筋電義手の訓練	筋電義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。						中村 恵一	
	8 能動義手評価(チェックアウト)演習	能動義手評価としてデモ義手装着し、チェックアウトを行い、意味、方法を義手の構造の理解とともに深める。						中村 恵一 佐藤 努	
	9 義手/筋電義手デモ	義手の種類を学ぶ。筋電義手ユーザーのDEMO見学。						小澤 義直 内藤 了彰	
	義足について 10 義足装着者に対するリハビリテーションおよびADL指導について	義足についての概略を説明できる。 義足装着者のリハビリテーションおよびADL指導について説明できる。						嵯峨 守人	

授業形態	講義、見学、実技実習、一部グループ討議と発表
教科書	義肢装具と作業療法 評価から実践まで 医歯薬出版株式会社
参考書	義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院 作業療法学全書[改訂第3版] 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 協同医書出版社 切断と義手第2版 医歯薬出版株式会社 医師薬出版株式会社 義肢学 第3版 日本義肢装具学会
評価方法	筆記試験;塩谷(65点)、嵯峨(10点) レポート(授業にて知り得たことや学んだことの感想) ;中村・佐藤(25点)
授業時間外の学習	塩谷:レポート作成。嵯峨:塩谷教員担当分で履修する切断者の概況について復習しておくこと。 中村・佐藤:義手の訓練、各部品の名称と役割を理解しておく。
履修上の留意点	塩谷:授業で学んだ範囲を復習しておくこと。 中村・佐藤:義手の基礎的な構造を理解した上で授業を進めるため、履修前に復習しておく。
担当者の実務経験	病院で作業療法および理学療法に従事、病院勤務による実務経験あり、当事者

授 業 要 項

令和2年度

科目名	職業前関連活動				担当者	林 厚志 奥 登貴子 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	人にとっての職業の意味を知り、障害者の職業リハビリテーション概念、理論を学ぶ。 障害者の就労制度や就労支援について学ぶ。 職業関連活動における作業療法士の役割について学ぶ。 精神障害者に対する就労支援について学ぶ。 職業リハビリテーションサービスの実際を知る。中途障害者の職業復帰の実際を知る(事例で学ぶ)。就業支援サービスにおける作業療法士の役割を考える。		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 職業について	・人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのかを理解し、説明できる。	奥 登貴子
	2 障害者の就労について	・障害者にとっての職業の意義について説明できる。 ・障害者の就労制度について説明できる。	奥 登貴子
	3 就労支援	・就労支援についての基本的な考え方を説明できる。 ・職業関連活動における作業療法士の役割を理解し、説明できる。	奥 登貴子
	4 就労支援における職業評価	・職業評価の目的と方法について理解できる。 ・職業評価体験を通じて、就労支援における作業療法の役割を理解できる。	梅田 雄嗣
	5 精神障害者の障害特性 精神障害者に対する作業療法アプローチ 就労支援の実際	・精神障害者における職業の意味や難しさについて理解できる。 ・精神障害者に対する就労支援プログラムの紹介を通じて、作業療法士の視点、役割、アプローチ方法について理解できる。	梅田 雄嗣
	6 総合拠点方式の就労支援サービスを	名古屋市総合リハビリテーションセンターを題材に、医療、福祉(生活支援)、労働(就労支援)の関係性、総合リハビリテーションの一端を説明できる。	林 厚志
	7 事例で学ぶ支援のノウハウ	高次脳機能障害を主症状としたケースの就職、復職支援について、総合リハビリテーションからジョブコーチ支援に至るまでの基本プロセスを説明できる。	林 厚志
	8 職業リハビリテーション(職リハ)の基本戦略	・人間システム・社会システムを理解し説明できる。 ・復職支援の前提として、職業の定義を説明できる。 ・職業リハの基本戦略について説明できる。	林 厚志
	9 障害者雇用に関する社会資源	・法定雇用率や雇用促進法について説明できる。 ・就労支援に関わる主な支援機関、事業について説明できる。	林 厚志
10 就業支援サービスにおける専門職の役割	・就業支援に関わる専門職を「基本的な支援を行う立場」と「二次的・専門的支援を行う立場」を説明できる。 ・就労支援におけるOTの役割について説明できる。	林 厚志	
授業形態	講義、演習、ビデオ放映(パソコン上で再生)、パワーポイント、ディスカッション		
教科書	作業療法学全書[改定第3版] 第12巻 職業関連活動 平賀昭信・岩瀬義昭編集 協同医書出版社		

参考書	適宜紹介する。配布資料
評価方法	期末試験(筆記試験); 奥(50点)、梅田(35点) 学習後レポート; 林(15点)
授業時間外の学習	就労支援の概念について理解が深められるよう、各回の授業後に30分程度復習を行うこと。 林: 講義後は配布資料や講義・ディスカッション内容をもとにA4×1～2枚程度のレポートを作成すること。
履修上の留意点	2年次の作業療法評価学精神障害・作業治療学精神障害Ⅱで学習した内容と、3年次の地域作業療法学演習で学習する内容が関連するので、整理して授業に臨むこと。 林: 講義までに学習した「就労支援」に関する内容を復習しておくこと。ディスカッションでは積極的に発言する(一人ひとつ以上は意見を出す)とともに、役割分担し、全員でチームの活性化を意識すること。
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事、対象者支援に関する実務経験あり

授 業 要 項

令和2年度

科目名	地域作業療法学 演習				担当者	長屋 政博 渡辺 崇史 石井 隆司 友渕 可乃子 今泉 良典 志田 卓弥 小林 孝輔 平塚 典子 水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療学科	単位数	1	時間数	60

教育目標 [一般目標]	・地域を対象とする作業療法が実践できるようになるために、地域の社会資源について調査、見学、実習を行いそれらの現状を把握し、地域リハビリテーションにおける作業療法士の役割について理解を深める。 ・地域リハビリテーションを考える上で、必要な事項を学び、地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る ・生活支援および社会参加を促すためのスイッチの適合方法について、製作改造実習を通して理解する。また、各種支援機器やタブレットPC、スマートフォン等の操作実習を通して操作スイッチの活用方法を学ぶ。 ・住宅改修を考える際に必要な建築知識を習得することを目標に、建築の基本構造、設備の基礎知識を学ぶ。また、在宅生活を目標にリハビリ計画を立てる際に、自宅の現況の把握の重要性と実測調査のポイントを学ぶ。 ・国際協力における作業療法について知る。 ・栄養学について理解する。リハビリテーションと栄養の関連について理解する。摂食・嚥下関連における栄養士の関わりについて知る。 ・摂食嚥下の機能及び障害に関する基本的事項、評価や検査、訓練について理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、OTとしてどんな介入方法があるのか基本的知識を身につける。 ・地域リハビリテーションにおける実践技術の1つとしてレクリエーションを実施する為の知識、技術を身につける。								
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者		
	1 地域リハビリテーションと介護予防の現状		地域リハビリテーションの流れ、現状の理解する。具体的な介護予防を理解する。				長屋 政博		
	2 ・生活支援機器とスイッチの役割 ・スイッチの適合に関する基礎知識 ・操作スイッチと各種機器の操作演習 ・操作スイッチの製作実習 ・BDアダプタの製作とおもちゃの改造実習 ・コミュニケーション拡大のための情報機器の活用 ・事例検討、まとめ		・ICFに基づいた操作スイッチの役割を理解する。 ・スイッチ適合に関する基礎知識を理解し、作業療法士としての視点と適合方法を説明できる。 ・身体機能との関連付けについて説明でき、各種スイッチの操作と設定ができる。 ・基本的なスイッチの製作ができる。 ・乾電池を使った機器等を身体機能に合わせて活用するための、基本的な改造ができる。 ・ICTも含めた情報機器活用の基礎が実践できる。 ・事例検討を通して、支援技術(アシスティブテクノロジー)の役割を理解する。				渡辺 崇史		
	3 ・現況図の見方、作成のポイント ・建築構造基礎 ・建築内部仕上基礎 ・建築設備基礎		・現況図の見方と現地実測図の作成のポイントを理解する。 ・木造住宅の造り方と構成を理解する。 - 鉄筋コンクリート造マンションの造り方と構成を理解する。 ・木造住宅の床の構成を理解する。 - 木造住宅の壁の構成を理解する。 - 鉄筋コンクリート造マンションの床の構成を理解する。 - 鉄筋コンクリート造マンションの壁の構成を理解する。 ・木造住宅の給排水設備を理解する。 - 鉄筋コンクリート造マンションの給排水設備を理解する。				石井 隆司		
	4 国際協力における作業療法		作業療法を通して、諸外国と交流できることを知る。 青年海外協力隊(ルーマニア)の活動 日本作業療法士協会国際部の紹介				友渕 可乃子		
	5 ・栄養学について ・リハビリテーションと栄養について ・嚥下調整食について		・三大栄養素、ビタミン、ミネラルについて ・リハビリテーション+栄養の併用による期待される事柄について ・摂食、嚥下関連における栄養の役割について				今泉 良典		
	6 ・医療ソーシャルワーカーの業務を知る ・社会資源とその活用について知る		・医療ソーシャルワーカーの業務概要がイメージでき、他者に医療ソーシャルワーカーを説明できる。 ・介護保険制度の概要について説明できる。 ・患者が生活復帰(社会復帰)する流れをイメージできる。				志田 卓弥		
	7 ・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態、原因、検査・評価、リハビリテーションについて		・摂食嚥下障害に関係する諸器官の解剖・生理について理解し、基本的なメカニズムについて説明できる。 ・摂食嚥下機能の検査、診断、評価からリハビリテーション方法の概要、チーム医療について理解する。				小林 孝輔		

8	地域リハビリテーションの各領域の目的	各領域(入所、通所、訪問、訓練、予防)におけるリハビリテーションの目的について説明できる。	梅田 雄嗣
9	福祉用具・補装具・住宅改修	介護保険制度と障害者総合支援法における福祉用具の給付・貸与の違いについて理解することができる。また、作業療法士が行う住宅改修について理解することができる。	水野 準也
10	地域リハビリテーションにおける取り組みの実際と作業療法士の関わり	文献抄読を通して、幅広い観点から地域リハビリテーションの実践を学び、作業療法士の可能性について考えることができる。	梅田 雄嗣
11	施設見学① 介護保険サービス関連施設 社会復帰関連施設	各グループで老人保健施設、介護保険サービス、社会復帰関連施設の実際を見聞し、各施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。	梅田 雄嗣
12	施設見学② 愛知障害者職業センター	施設見学を通し、障害者職業センターの役割と業務内容を理解することができる。 障害者における職業リハビリテーションの実際を見聞し、知識と理解を深めることができる。	梅田 雄嗣
13	施設見学発表	施設見学①に関し、各グループが見聞した内容について発表を行い、他施設の概要や役割について知識や情報を共有することができる。	梅田 雄嗣
14	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの概要や方法について理解することができる。 モデルケースを通して、生活行為向上マネジメントの実践・体験を行うことができる。	水野 準也
15	レクリエーション総論	レクリエーションの定義、OTでのレクリエーションの対象および目的を理解することができる。 レクリエーションを実施する上での、構成、評価、レクリエーション計画の方法を理解することができる。	水野 準也
16	レクリエーション計画	介護老人保健施設におけるレクリエーション計画書の作成およびレクリエーションの準備をすることができる。	水野 準也
17	介護老人保健施設とOTの役割 (施設見学) 日進老人保健施設(引率:水野)	介護老人保健施設の実際を見聞し、施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。 老人保健施設での作業療法士の役割を理解することができる。	平塚 典子
18	レクリエーション実習(3回) 日進老人保健施設(引率:水野)	実際に老人保健施設に入所および通所の利用者を対象とし、レクリエーション計画の立案からレクリエーションの実施まで遂行することができる。 レクリエーション実施後、グループおよび自己の振り返りを行うことができる。	平塚 典子
授業形態	講義 グループワーク 施設見学 実習		
教科書	配布資料		
参考書	特になし。		
評価方法	レポート等:長屋(3点)、渡辺(12点)、石井(5点)、友淵(3.5点)、今泉(3.5点)、志田(3.5点)、小林(3.5点)、平塚(11点)、水野(15点)、梅田(10点) 発表:水野(15点)、梅田(15点)		
授業時間外の学習	レクリエーション計画、文献抄読、施設見学等において発表にむけたレジュメの作成やレポート作成を行う。		
履修上の留意点	水野・梅田:地域社会資源関連とレクリエーション関連に大別される。この授業においては、施設見学、レクリエーション実習など学院外での授業がある。事前に、詳細についてオリエンテーションがあるため、各々が内容をきちんと把握すること。 石井:乾電池(単3形か単4形)で動くおもちゃを各自用意してください(全員)。iPadまたはiPhoneを持ってくる(持っている人のみで良い)。		
担当者の実務経験	病院勤務および対象者支援に関する実務経験あり		

授 業 要 項

令和2年度

科目名	作業療法研究法				担当者	水野 準也 OT教員			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	1. 作業療法士が行う研究方法を学ぶ。 2. 研究を行う上で基本的な手続きを理解し、それをグループで実施する。 3. 学んだ知識を用いて、実際にグループで研究テーマを決め、データを分析し論文を完成させる。 (卒業論文として完成させ製本する)		
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]	担当者
	1 「研究」について(総論)	研究の目的や意義を理解することができる。 研究の種類・分類について理解することができる。 研究の流れを説明することができる。 研究疑問について理解することができる。 研究計画の立案から計画書作成、実験の実施、 報告および発表における留意点を理解できる。 実験的研究と、そのデザインについて理解することができる。	水野 準也
	2 研究計画書・インフォームドコンセント	研究計画書の作成方法を理解および説明することができる。 インフォームドコンセントについて理解することができる。 研究同意書の作成方法を理解および説明することができる。	水野 準也
	3 統計学入門	尺度の種類について説明することができる。 基本統計量を理解および説明することができる。 正規分布について理解することができる。 標準偏差について理解することができる。 帰無仮説および対立仮説について理解することができる。 統計的仮説検定について理解することができる。 P値について理解することができる。 パラメトリックおよびノンパラメトリック検定について理解することができる。	水野 準也
	4 研究計画書発表	各グループで作成した研究計画書を発表することができる。	水野 準也
	5 グループワーク指導(全5回)	指定されたテーマに関し、担当教員よりグループで指導を受け、研究計画を立案し、実験の実施・ 分析・考察を踏まえ、論文を作成することができる。	OT教員
授業形態	講義およびグループ討議を主とする。学習資源としてパワーポイントを使用する。		
教科書	作業療法士のための研究法入門 鎌倉矩子 他 三輪書店		
参考書	適宜紹介する。		
評価方法	研究計画書(発表を含む)および研究結果の提出とその内容;100点		
授業時間外の 学習	本授業をもとに、事業時間外においてグループで討議し、主体的に進めることを望む。		
履修上の 留意点	決められたグループで研究を実施する。その結果を卒業論文として完成することが課題である。なお、前期に研究計画を発表し、実験を行い、後期においては卒業論文を発表する機会を持ち、プレゼンテーションを実施する。グループ内で合意形成しながら研究を進めること。		
担当者の 実務経験	病院での作業療法に従事、研究活動の実務経験あり		